

【学習プログラム開発の基礎Ⅱ】

「学習プログラムの評価」

目標： 学習プログラム開発における評価の理論や手法を学び、学習プログラムの目的や目標に応じた評価方法や評価項目の設定を行うことができるようになる。

ぼれっとひろしま

広島県立生涯学習センター

- 1 学習プログラムの評価の理論**
- 2 学習プログラムの評価の実際**

1 学習プログラムの評価の理論

学習プログラムを なぜ評価するのか？



〔学習プログラム〕
講座，行事，集会等の集合学習の機会に
おいて，住民の学習を支援するための計画

学習プログラムの開発におけるPDCAサイクル

P L A N

学習ニーズの把握や対象の分析



目的, 目標, 対象, 学習内容・方法,
時期, 会場, 回数等を定める。

D O

実施・運営

会場, 設備, 資料準備, 役割分担確認等

C H E C K

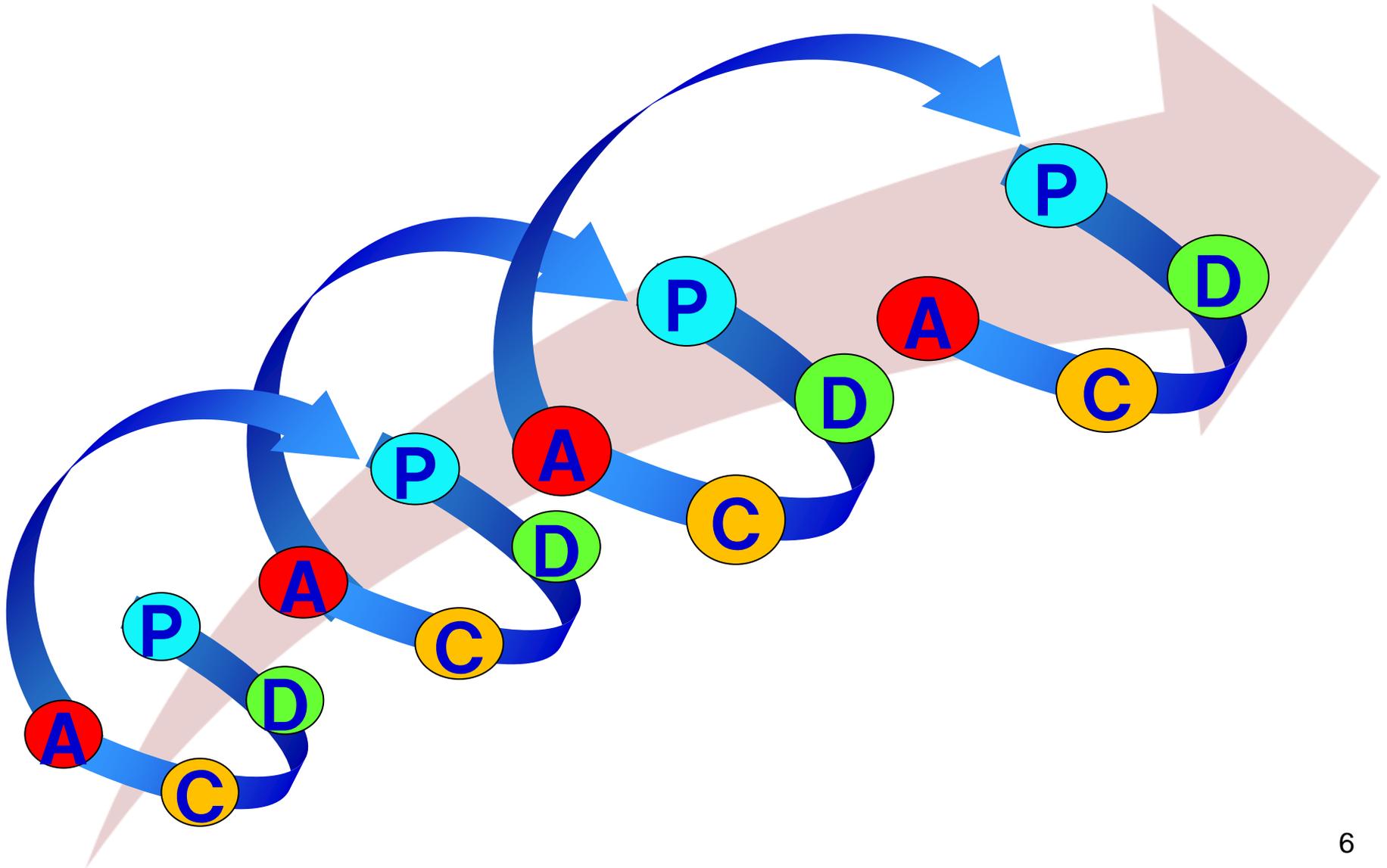
プログラム評価,
学習成果の評価 等



A C T I O N

プログラムの分析・改善, 一般化

PDCAサイクル



中長期的な見通しをもった事業の例

共助の精神で作る
防災に強いまちづくり

昨年の参加者が
「支援者」として
関わる「第2回防災
講習会」を開こう。

年間計画

1年後

講習修了者による
防災対策のための
「ボランティアサークル」を結成しよう。

3年後

5年後

「ボランティアサークル」や
市の担当部局と連携・協
力し、「災害時対応マニ
ュアル」を作成しよう。

例)「防災講習会」
の開催

中期計画

学習プログラムを評価する意義

主催者

- PDCAサイクルの最終ステップ（事業の改善・充実）
- 次年度計画の説明根拠となる資料
- 中長期的な見通しのなかでの事業運営
（人材育成，地域づくり等の事業は短期では達成しづらい）
- アカウンタビリティ（説明責任）の必要性

学習者

- 学習者自身が学習プログラム内で，達成感や充実感を確認する

「振り返り」の教育的な意義

⇒ 学習成果の活用・還元

知識

技能

意識（関心・意欲・態度）

主に評価する項目

○学習プログラム自体の評価

①計画

- ・計画した活動の準備，実施順序，活動内容，目標設定等は適切であったか

②実施結果

- ・活動を実施したことによって起きた結果

○学習者の学習成果の評価

③目標の達成度

- ・学習プログラムの目標は，どの程度到達できたか

④波及効果

- ・学習プログラム立案者が想定していなかった成果，新たな気づきや展開（波及効果）はないか

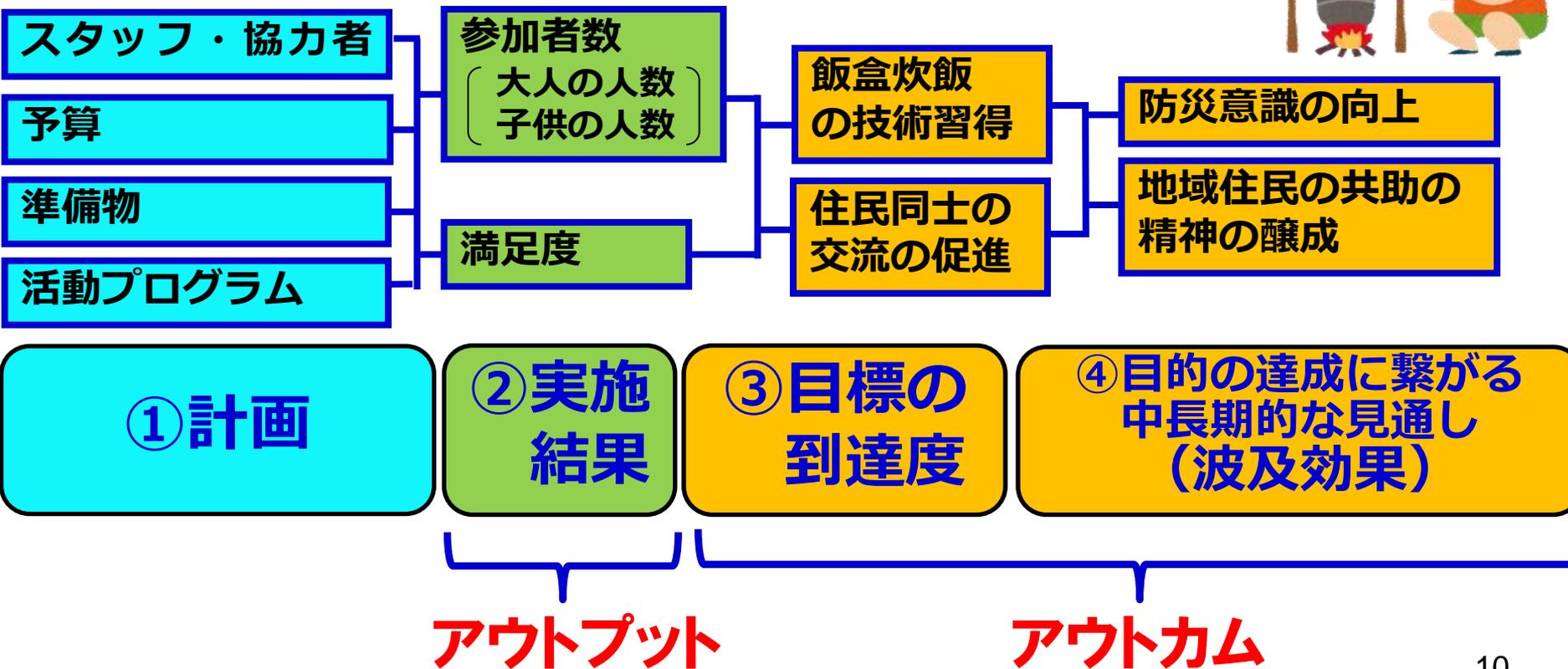
評価のイメージ

学習プログラムの評価

学習成果の評価

みんなで学ぶ！防災デイキャンプ

災害等の非常時に備え，地域住民で飯盒炊飯をしよう！



「アウトプット」と「アウトカム」

アウトプット

事業の実施によって直接的に生じた結果

参加者・修了者数, 学習者の満足度,
学習成果物(作品・発表資料etc.)など

アウトカム

事業の実施により発生した成果(効果, 変化, 影響)

知識・技能の習得, 意識・行動の変化,
アウトプットの成果物の応用・活用(価値),
環境の醸成・ネットワーク形成など

→アウトカムの中には中・長期的な成果につながるものが多い

実施した結果をつかむ

把握すべき実態

- 参加者数
- 参加者の実態をより深く知るデータ
例) 性差・年齢・居住地域・学習経験等
- 学習成果物
例) 作品・発表資料

注意！ 学習歴や参加動機・きっかけなどは
含まない。

(学習評価≠学習二一ズ調査)

学習目標の到達度をはかる

把握すべき実態

①知らないことを知ることができたか（知識）

- 例） ・ 理解できたかどうかその場で聞く
・ チェックリストの活用など

②できないことができるようになったか（技能）

- 例） ・ 成果物，発表内容の活用
・ 活用の方法や場面を尋ねる

③意識が変わったか（意識）

- 例） ・ 意見交流や発表の内容を記録
・ アンケートの自由記述の活用

聞きにくいが、
やっぱり
③が大事！

目的の達成に繋がる中長期的な見通し (波及効果) を発見する

把握すべき実態

この事業の次の展開を考えるうえで、必要な情報とは？

- 学習目的の達成に繋がるような成果
例) 人的あるいは情報ネットワークの形成の有無
- 次の事業立案のヒントとなるような情報
- リピーター (継続的な学習参加者) となっても
らうためのニーズ調査

2 学習プログラムの評価の実際

演習

評価のための情報収集

学習プログラム自体を評価したり，学習者の学習成果を評価・確認したりするためには，どのような情報を収集する必要がありますか？なるべくたくさん挙げてみましょう。

自分の意見，グループメンバーからの意見をメモしましょう！

実施結果

目標の到達度

目的の達成に繋がる中長期的な見通し(波及効果)

学習成果の評価の方法

- ① 「振り返りアンケート」の結果
- ② 学習参加者の様子
- ③ 感想文
- ④ 受講者への聞き取り
- ⑤ 学習活動の観察
- ⑥ 会場での発言・質問・拍手などの反応
- ⑦ 学習成果物（作品・発表資料等）
- ⑧ 学習活動の記録

「振り返りアンケート」の問題点

- アンケートの回収率の低さ
- コメント（自由記述）の少なさ
- アンケートに対する学習者の理解，記述力の差異が反映しやすい（答えにくさがある）
 - ★ 項目としては3～5コが限度
 - ★ 記述式より選択式が答えやすい
 - ★ すべての年齢層に紙面によるアンケート方式は適用できない（高齢者や子供等）



- ・ 「振り返りアンケート」に頼りすぎないために，必要な成果を収集する，評価計画の重要性

演習 「振り返りアンケート」の作成

作成手順

A 4 用紙を縦に置き，折り目をつけてください。
(8等分)

事業名：
活動の目標：
アンケート項目：

事業名

活動の目標

参加者に身に付けてもらいたい
知識，技術，意識等

アンケート項目
(3～5個)

参考文献・資料

- (1) 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター
『社会教育計画策定ハンドブック 計画と評価の実際』
(平成23年)
- (2) 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター
『生涯学習支援論ハンドブック』 (令和2年)